

## お客さまと社会の課題に応える新開発の NC 装置「AMNC 4ie」を発表



ファイバーレーザマシン用



ベンディングマシン用

株式会社アマダ(神奈川県伊勢原市、代表取締役社長:磯部 任)は、2月3日に新たなNC装置「AMNC 4ie」を発表しました。「AMNC 4ie」を搭載したマシンは、誰でもより簡単に、どこでも効率よく使える環境にやさしいマシンへと進化します。

現在、板金加工業界では、少子高齢化に伴う労働者不足に加え熟練技能の継承が喫緊の課題となっています。さらにグローバル企業のサプライチェーンにおけるカーボンニュートラルへの対応も急務であります。

新 NC 装置「AMNC 4ie」は、お客さまや社会課題、環境課題に応えるため、Easy(誰でもより簡単に)、Efficiency(どこでも効率よく)、Environment(環境にやさしい)、Evolution(お客さまとともに発展する)の4つの“E”をコンセプトに、世界の製造現場を支えます。

### ■「AMNC 4ie」の主な特長

#### 1. Easy: 誰でもより簡単に

作業者を自動で識別する「顔認証」により、一人ひとりの作業者に合わせた操作画面の起動、言語表示(15カ国語に対応)、権限の切り替えなどを自動で行うことができます。また、動画による点検指示により、誰でもより簡単に点検を行うことができ、作業履歴はデジタルで自動保存、トレーサビリティ管理も可能になりました。さらに、ファイバーレーザマシンでは「端材自動ネスティング」により、必要な製品とその個数を指定するだけで、効率的な製品配置を可能としました。ベンディングマシンにおいても、作業者に追従して左右に動くタブレットを搭載し、作業者に合わせて適切なアドバイスを行う「ガイダンス」機能により、熟練度を問わないマシンへと進化させます。

## 2. Efficiency: どこでも効率よく

ファイバーレーザーマシンではモバイル端末によるリモート操作を採用し、マシンから離れた場所でも稼働状態を監視で、材料の管理、スケジュール作成、加工のリモートスタートなどが一元管理できるので、一人で複数台のマシン操作を可能とし、一人当たりの生産性向上に役立ちます。ベンディングマシンでは「音声操作」を搭載することで、作業者がその場でワークを持ったままでも発声するだけで、加工スタート、ストップ、補正值入力などが行えるため、操作盤への無駄な往復をなくすことを可能にしました。また、加工スタートに関しては、音声認識後にフットスイッチによる起動を条件としており、安全面にも十分配慮しています。

## 3. Environment: 環境にやさしい

ファイバーレーザーマシンでは、アイドル時にサーボモーターやチラー、コンプレッサなどを自動で調整し、CO<sub>2</sub> 排出量を最大 65%削減します。加工中においても、切断を行わない早送り中のアシストガスの最適化制御を加えることで、加工中のアシストガス消費量の削減も可能にしました。ベンディングマシンにおいても、サーボモーターや熱交換器、作業灯を自動で調整するアイドルリングストップ機能を搭載しました。さらに、電力消費量やアシストガス消費量をモニタリングし、マシンのサマリーとして表示できるほか、加工プログラム単位や全ての製品単位で CO<sub>2</sub> 排出量のモニタリングが可能になりました。

## 4. Evolution: お客さまとともに発展する

アマダグループは、環境負荷低減への貢献やデジタル技術を駆使した加工のスキルレス化や技能伝承、工場全体の最適化、自動化に対応する新たなソリューションを開発し、これらの課題解決に貢献します。総合的な生産性向上にお客さまとともに挑戦することで、モノづくり産業全体の支援をしていきます。

※本リリースに記載されている情報は、予告なしに変更される可能性があります。予めご了承ください。

以上